

## は じ め に

甲府市立玉諸小学校  
校長 丸 茂 明 彦

学校教育法施行規則が改正され、「道徳の時間」が「特別の教科道徳」として新たに位置づけられました。基本的な考え方をはじめ、教育課程への位置づけ、実際の授業の組み立て方、評価等、取り組むべきことが山積していました。このようなことから本年度は研究主題を『自ら考え、判断できる児童の育成を目指して』、副題を ～道徳性を養うための授業実践を通して～ としました。

通常であれば、本校研究の内容・経過、成果と課題等の一端について、ここで触れるところではありますが、本編の中で十分に語り尽くされているので省くことといたします。詳細は、そちらをご覧ください。

さて、いつも思っていることですが、校内研究というものは何のために行うのでしょうか。教師一人一人の広範な指導力の向上のためであろうことは言うまでもありません。その指導力の向上は、日々の授業の質的な向上に結びついていきます。授業が変われば、子供も変わっていくものと考えます。何か特別なことをしようとするのではなく、日常の授業を着実に充実させることを第一に考えていけばよいのです。そうすることによって、いわゆる学力の向上にも結びついていくものと確信しております。

もちろん、一人であっても自らの指導力の向上を図っていくことは可能ですが、仲間と様々な考え方や意見を交わす中で得られるものは、個人での場合に比べると、はるかに厚みのあるものとなるはずです。

本校の教師集団は、日常的に刺激しあって伸びていける集団であり、その成果の一端が校内研究でも十分に発揮されているものであると信じております。

最後になりましたが、本校の研究に対して多くの御助言・御指導をいただいた市教委等の諸先生方に心より感謝申し上げますとともに、ここまで研究の核となり全体をリードしてくれた研究主任、そして、本年度の研究に関わったすべての同僚にも感謝したいと思います。

平成 30 年 3 月

